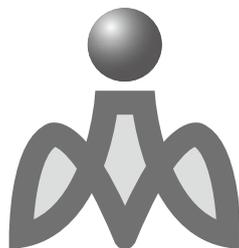


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔令和7年10月～12月実績〕
〔令和8年1月～3月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調 査 要 領	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 観	3
(2) 主な項目で見る業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 観	6
(2) 主な項目で見る業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 観	9
(2) 主な項目で見る業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 観	12
(2) 主な項目で見る業況	12

【I】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

(1) 対象地区 19商工会 (2) 対象企業数 165企業 (3) 回答企業数 165企業

2. 調査対象期間

第3四半期 令和7年10月～12月期 「調査時点：令和7年12月1日」

3. 調 査 方 法

県内の調査対象企業を19商工会の経営指導員等が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービ業	計
都 留 市	3	2	3	4	12
山 梨 市	1	2	2	3	8
大 月 市	2	1	3	2	8
韮 崎 市	2	2	1	2	7
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
甲 斐 市	4	3	5	2	14
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	2	1	2	2	7
甲 州 市	3	1	2	3	9
中 央 市	2	1	2	1	6
市 川 三 郷 町	2	1	1	2	6
身 延 町	1	1	2	2	6
南 部 町	1	0	1	1	3
富 士 川 町	1	1	1	2	5
昭 和 町	1	1	3	3	8
西 桂 町	0	0	1	1	2
南 都 留 中 部	1	1	2	2	6
河 口 湖	1	1	6	5	13
計	37	25	50	53	165

5. そ の 他

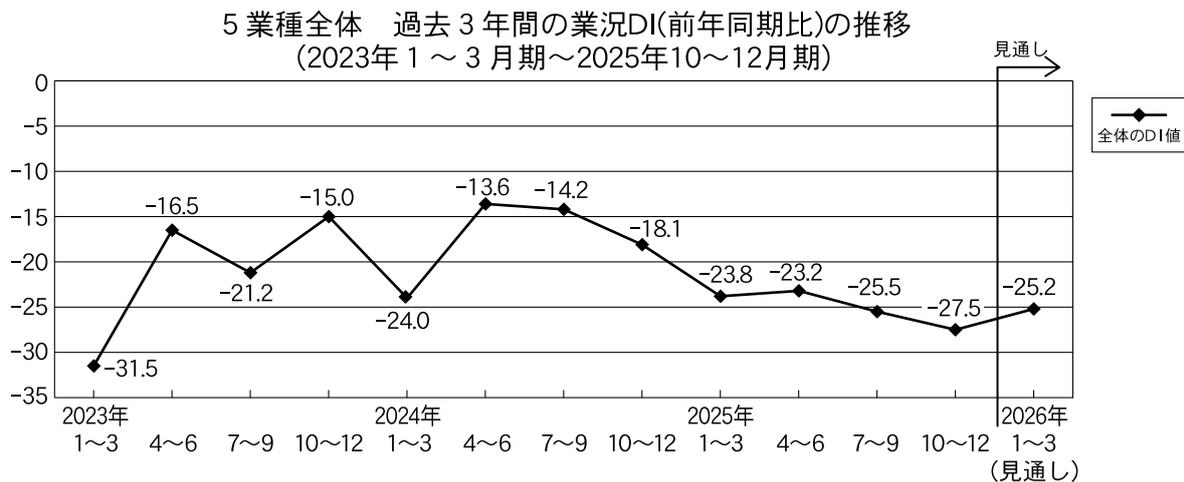
本報告書のDIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

本県における5業種全体の業況判断D I、及び、産業別の業況判断D Iについてみる。

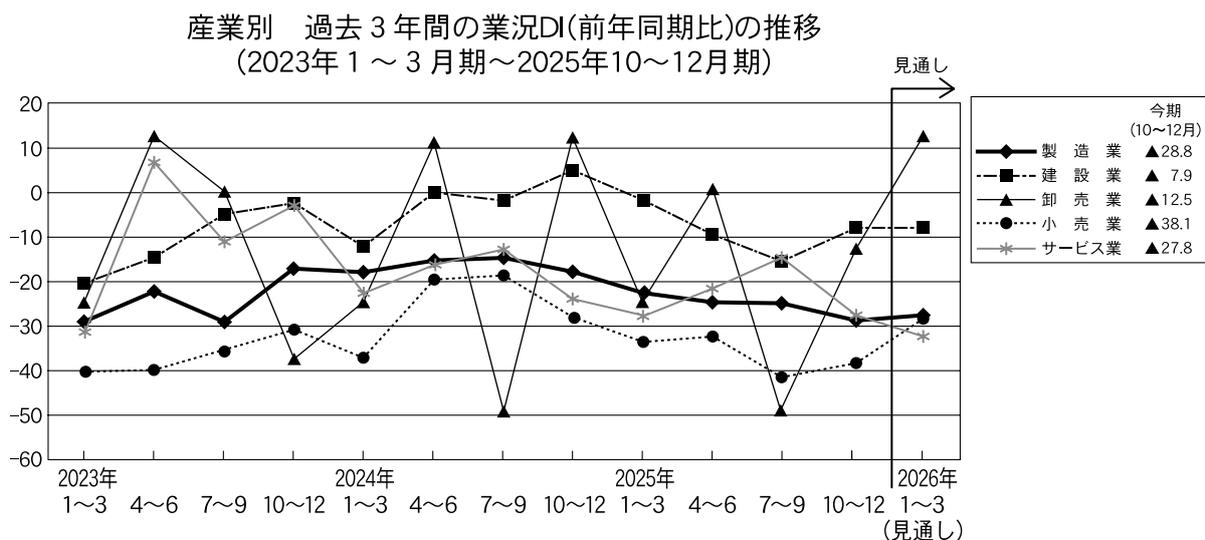
まず、前年同期比でみた過去3年間の5業種全体の業況判断D Iである。今期の業況判断D I（前年同期比）は▲27.5であり、前期比で▲2.0ポイント悪化している。一方、来期については▲25.2へと改善の見通しとなっている。



次に、前年同期比でみた過去3年間の産業別の業況判断D Iである。

製造業は▲28.8で前期比▲3.5ポイント、建設業が▲7.9で前期比+7.8ポイント、卸売業が▲12.5で前期比+37.5ポイント、小売業が▲38.1で前期比+4.0ポイント、サービス業が▲27.8で前期比▲14.0ポイントであった。

来期は、製造業、卸売業、小売業が改善の見通しで、建設業は今期同様、サービス業は悪化の見通しとなっている。



【注記】 上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象165企業に甲府・富士吉田地域等からの106企業を含めた271サンプルを使用。卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用。次ページからの産業別景況D Iについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものである。

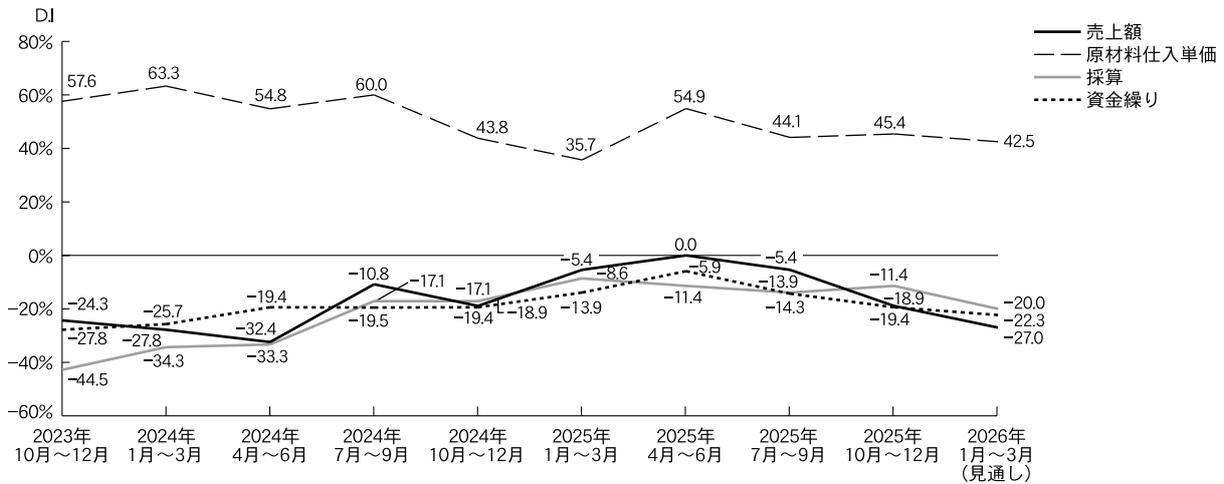
2. 製造業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期▲18.9と前期比で13.5ポイント悪化し、来期はさらに▲27.0へ悪化の見通し。原材料仕入単価D Iは、今期45.4と前期比で1.3ポイント上昇（悪化）したが、来期は42.5へ下降（改善）の見通し。採算D Iは、今期▲19.4と前期比で5.5ポイント悪化し、来期も▲22.3へ悪化の見通しである。資金繰りD Iは、今期▲11.4と前期比で2.9ポイント改善したが、来期は▲20.0へ悪化の見通しである。

今期は資金繰りD Iのみが改善で、その他のD Iは悪化した。来期は原材料仕入単価D Iのみが改善、その他のD Iは悪化の見通しである。

山梨県 製造業 主要景況項目の推移－前年同期比－



(2) 主な項目でみる業況

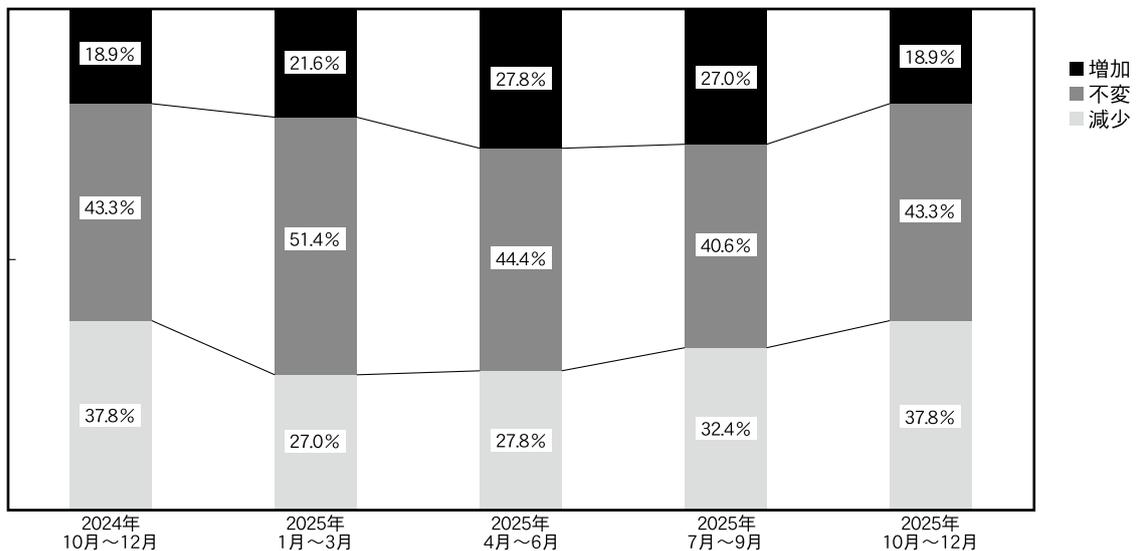
① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数37社）

「増加」と答えた企業の割合は、18.9%（7社）に減少（前期比▲3社）している。

「不変」は43.3%（16社）に増加（前期比+1社）し、

「減少」は37.8%（14社）に増加（前期比+2社）している。

山梨県 製造業 売上額の状況－前年同期比－



② 採算（採算D Iの内容（回答企業数36社）

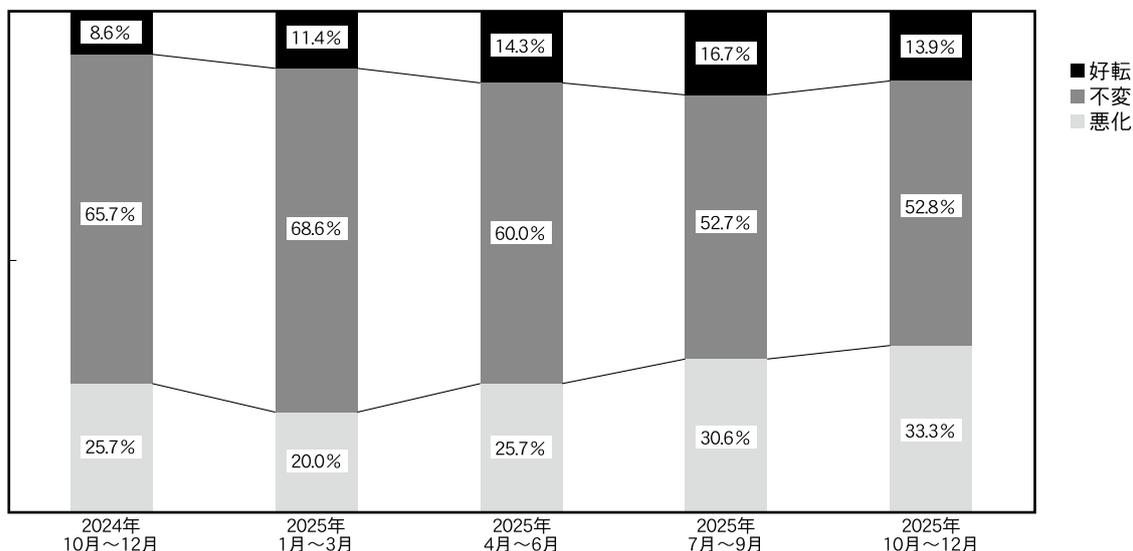
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、13.9%（5社）に減少（前期比▲1社）している。

「不変」は52.8%（19社）で前回と変化なし、

「悪化」は33.3%（12社）に増加（前期比+1社）している。

山梨県 製造業 採算の状況－前年同期比－

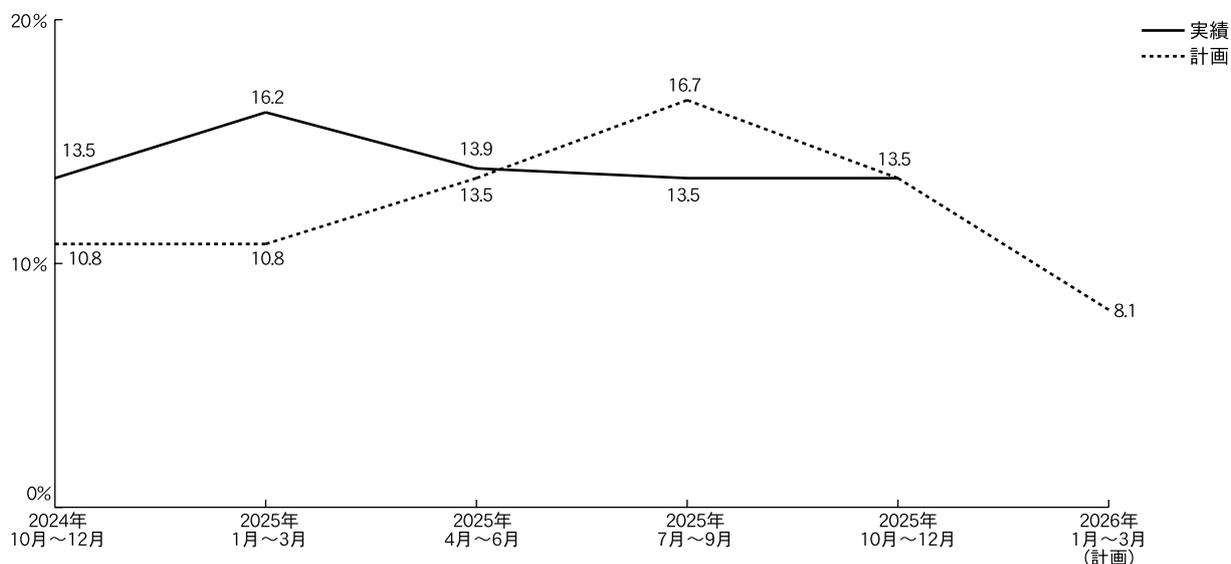


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数37社）

今期において、設備投資を行った企業の割合は13.5%（5社）であった。その設備投資の内容は、「OA機器」が3件、「生産設備」「その他」が1件ずつであった。

来期の計画については、8.1%（3社）の企業が予定している。その設備投資の内容は「車両・運搬具」が2件、「OA機器」が1件である。

山梨県 製造業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数33社）

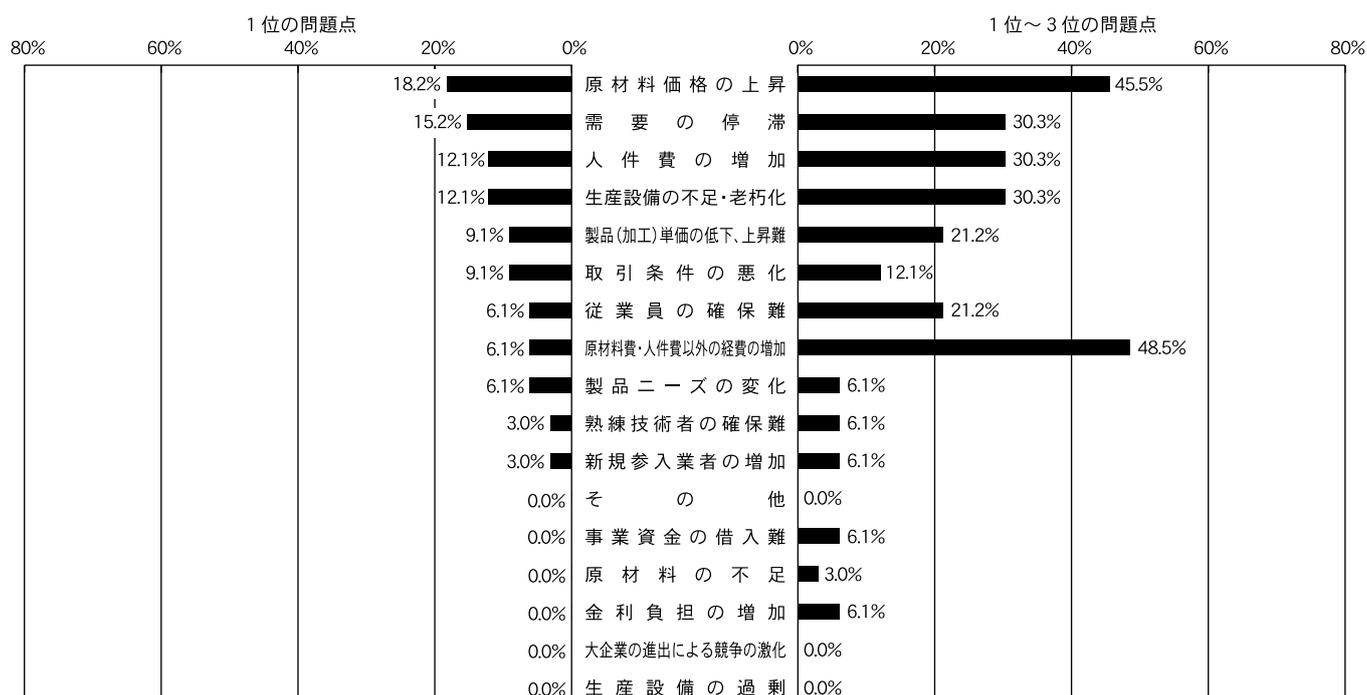
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「原材料価格の上昇」の18.2%（6社）であり、2番目は「需要の停滞」の15.2%（5社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは「原材料費・人件費以外の経費の増加」の48.5%（16社）であった。2番目に多かったのは「原材料価格の上昇」の45.5%（15社）であった。

山梨県 製造業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	5	13.5
飲料・飼料・たばこ製造業	1	2.7
印刷・同関連業	2	5.4
化学工業	1	2.7
プラスチック製品製造業	3	8.1
金属製品製造業	3	8.1
一般機械器具製造業	13	35.2
電気機械器具製造業	2	5.4
精密機械器具製造業	1	2.7
その他製造業	6	16.2
合計	37	100.0

従業員規模別

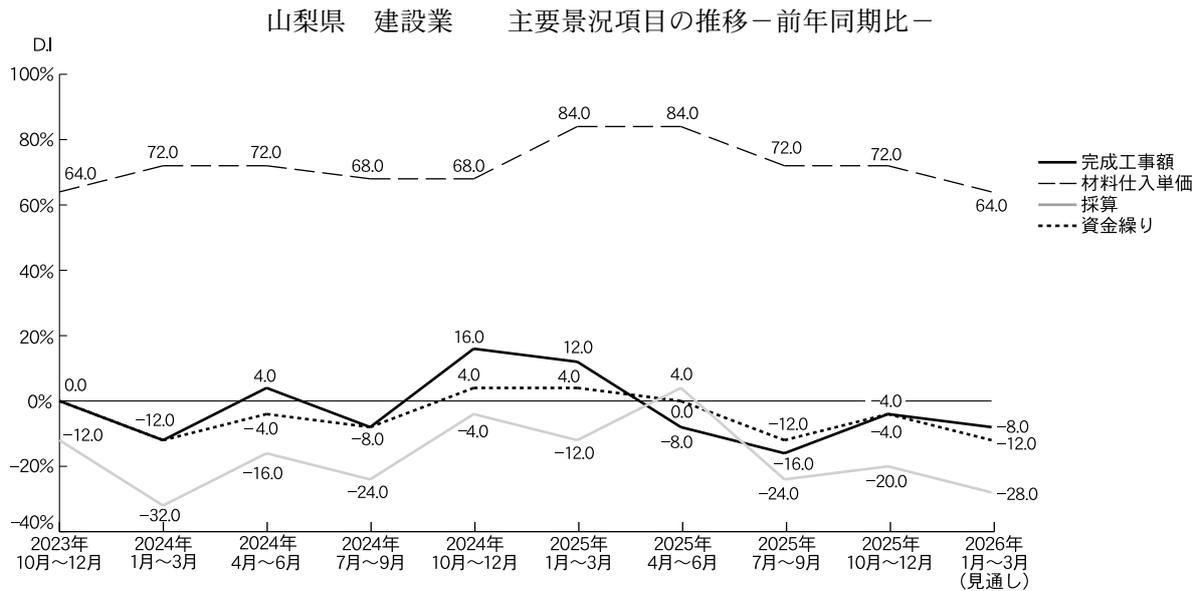
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い		企業数(社)	構成比(%)
2人以下	19	51.4	16	43.3
3人～5人以下	9	24.3	7	18.9
6人～10人以下	6	16.2	10	27.0
11人～20人以下	3	8.1	4	10.8
合計	37	100.0	37	100.0

3. 建設業の動向

(1) 景況概観

完成工事額DIは、今期▲4.0と前期比で12.0ポイント改善したが、来期は▲8.0へ悪化の見通し。材料仕入単価DIは、今期72.0と前期から変化無く、来期は64.0へ下降（改善）の見通しである。採算DIは、今期▲20.0と前期比で4.0ポイント改善したが、来期は▲28.0へ悪化の見通し。資金繰りDIも、今期▲4.0と前期比で8.0ポイント改善したが、来期は▲12.0へ悪化の見通しである。

今期は材料仕入単価DIのみが前期比で変化なし、他のDIは全て改善した。来期は材料仕入単価DIのみが改善の見通し、他のDIは全て悪化の見通しとなっている。



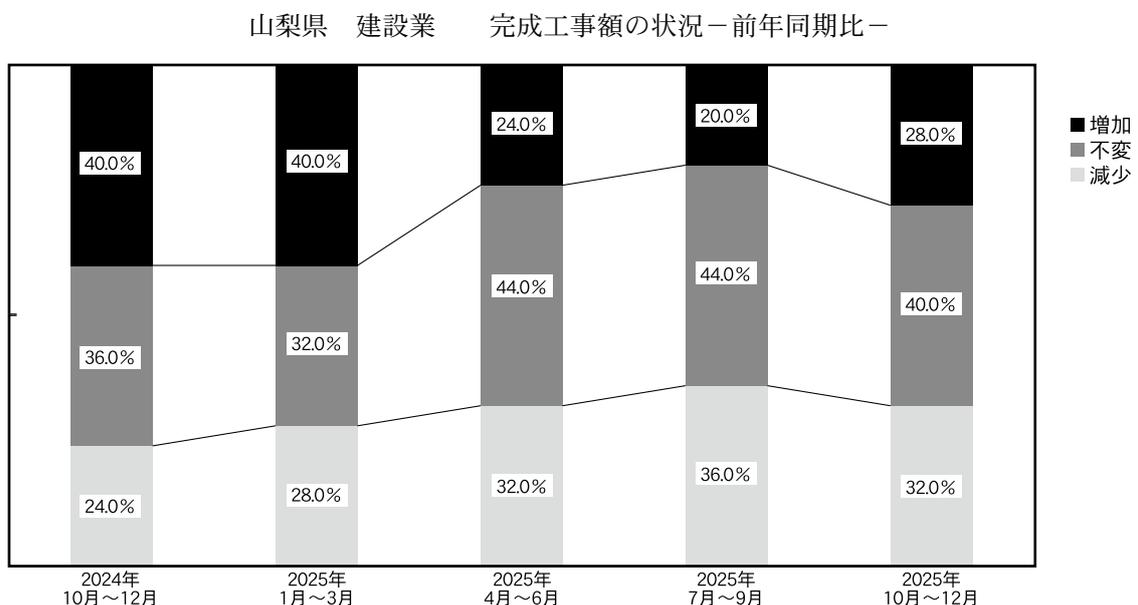
(2) 主な項目で見る業況

① 完成工事額（完成工事額DIの内容（回答企業数25社））

「増加」と答えた企業の割合は、28.0%（7社）に増加（前期比+2社）している。

「不変」は40.0%（10社）に減少（前期比▲1社）、

「減少」は32.0%（8社）に減少（前期比▲1社）している。



② 採算（採算D I の内容（回答企業数25社））

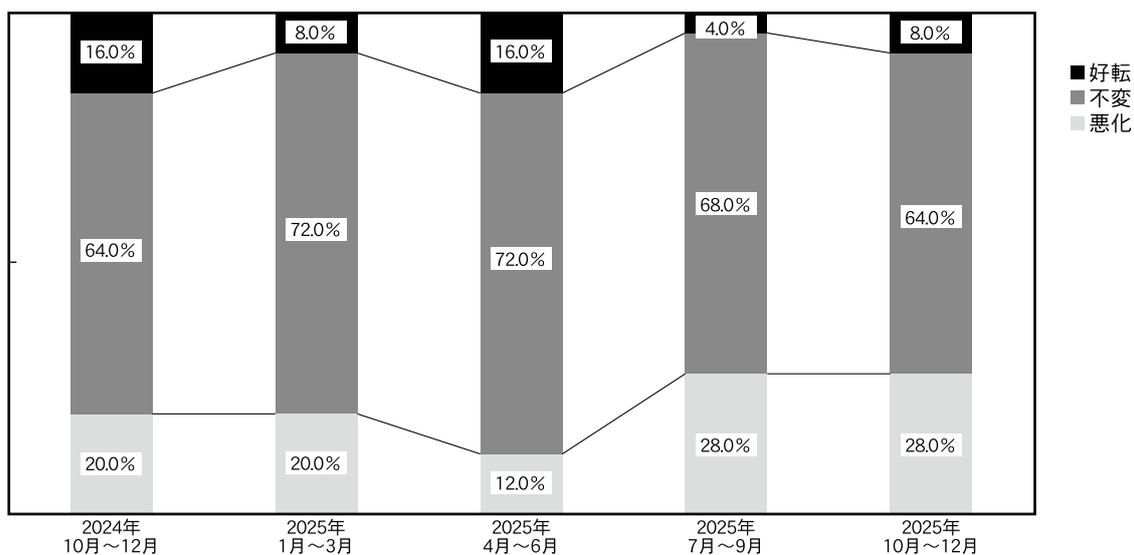
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、8.0%（2社）に増加（前期比+1社）している。

「不変」は64.0%（16社）に減少（前期比▲1社）、

「悪化」は28.0%（7社）で前回と変化なし。

山梨県 建設業 採算の状況－前年同期比－

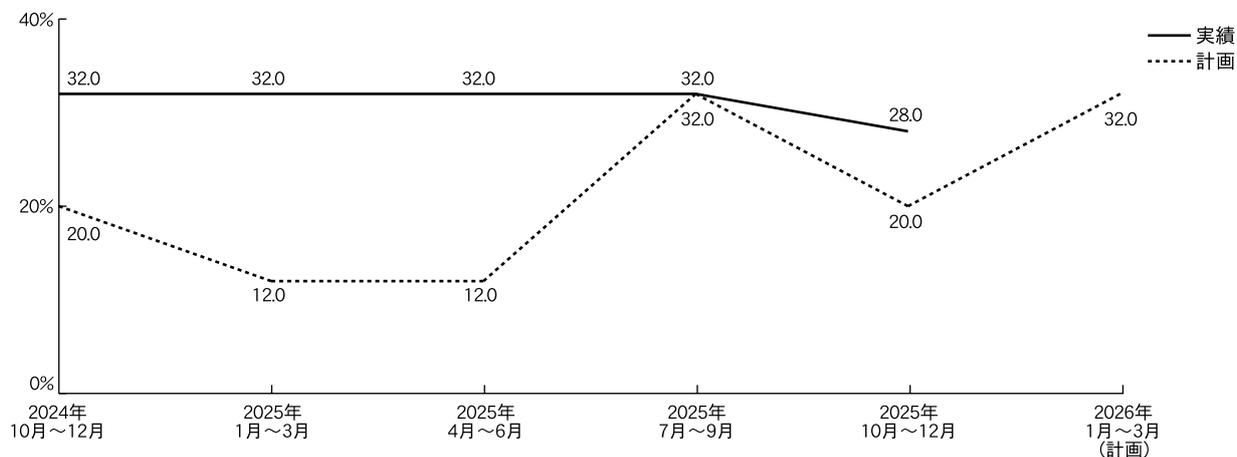


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数25社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は28.0%（7社）であった。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」「OA機器」が4件ずつ、「建物」が2件、「土地」「建設機械」「福利厚生施設」が1件ずつであった。

来期の計画については、32.0%（8社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「土地」が4件、「車両・運搬具」が3件、「建物」「建設機械」「付帯施設」「OA機器」が1件ずつになる。

山梨県 建設業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数23社）

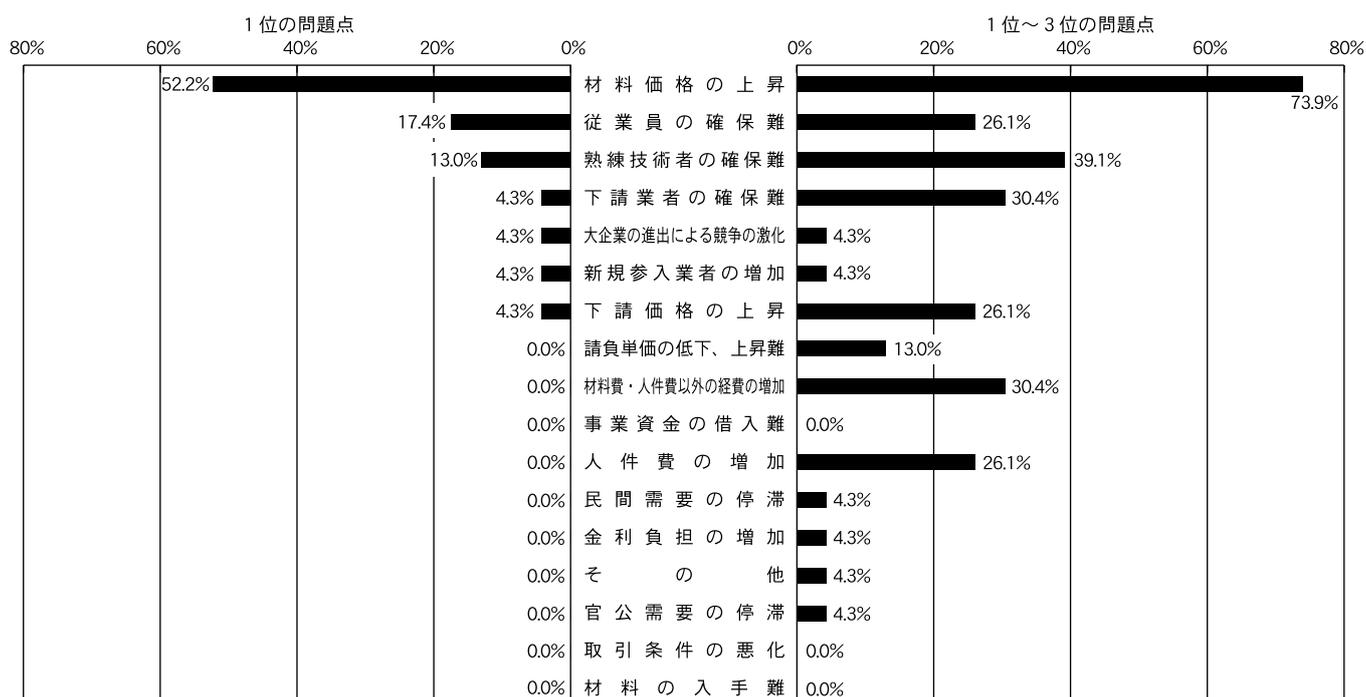
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「材料価格の上昇」の52.2%（12社）で、19期連続。2番目に多かったのは「従業員の確保難」の17.4%（4社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらも、1番目に多かったのは「材料価格の上昇」の73.9%（17社）であるが、2番目に多かったのは「熟練技術者の確保難」の39.1%（9社）であった。

山梨県 建設業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
総合工事業	19	76.0
職別工事業	4	16.0
設備工事業	2	8.0
合計	25	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い		企業数(社)	構成比(%)
2人以下	9	36.0	8	32.0
3人～5人以下	6	24.0	7	28.0
6人～10人以下	5	20.0	5	20.0
11人～20人以下	5	20.0	5	20.0
合計	25	100.0	25	100.0

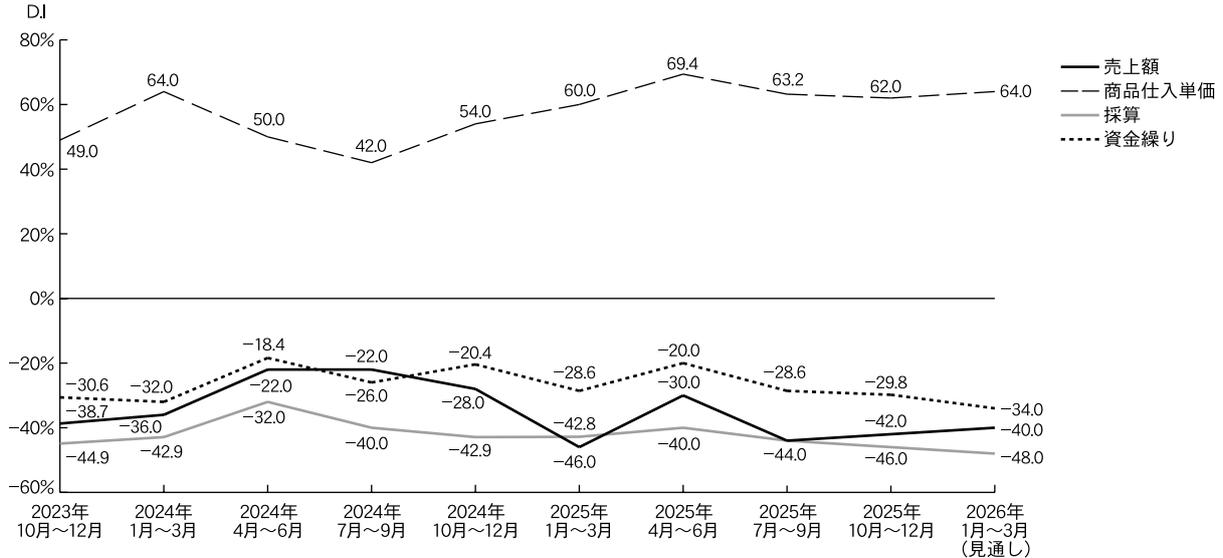
4. 小売業の動向

(1) 景況概観

売上額DIは、今期▲42.0と前期比で2.0ポイント改善し、来期も▲40.0へ改善の見通しである。商品仕入単価DIは、今期62.0と前期比で1.2ポイント下降（改善）したが、来期は64.0へ上昇（悪化）の見通し。採算DIは、今期▲46.0と前期比で2.0ポイント悪化し、来期も▲48.0へ悪化の見通し。資金繰りDIも、今期▲29.8と前期比で1.2ポイント悪化し、来期も▲34.0へ悪化の見通しである。

今期は売上額DI、商品仕入単価DIが改善し、採算DI、資金繰りDIが悪化した。来期は売上額DIのみが改善の見通しで、それ以外のDIは全て悪化の見通しである。

山梨県 小売業 主要景況項目の推移－前年同期比－



(2) 主な項目でみる業況

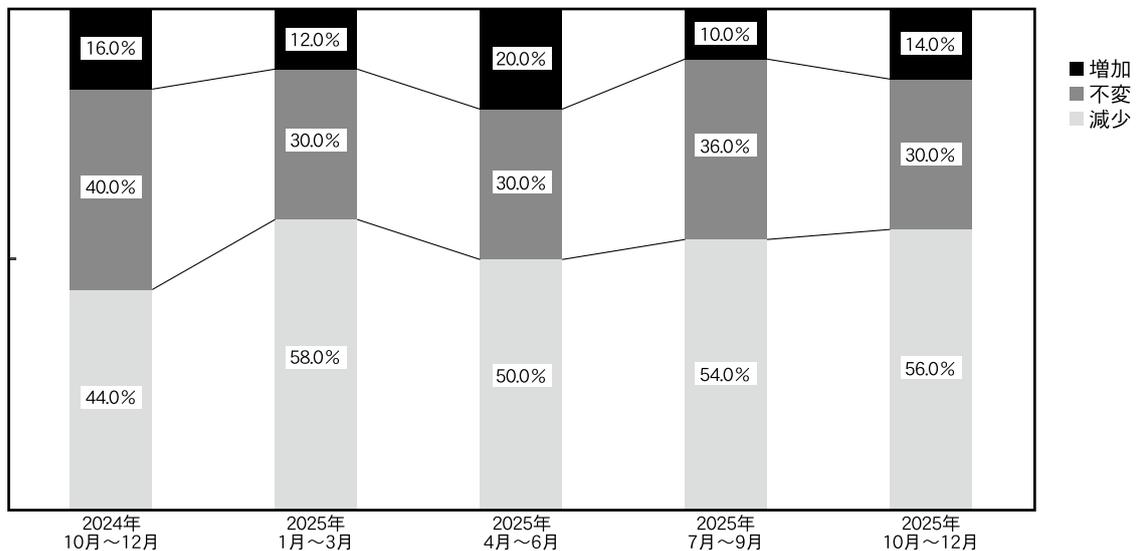
① 売上額（売上額DIの内容（回答企業数50社））

「増加」と答えた企業の割合は、14.0%（7社）に増加（前期比+2社）している。

「不変」は30.0%（15社）に減少（前期比▲3社）、

「減少」は56.0%（28社）に増加（前期比+1社）している。

山梨県 小売業 売上額の状況－前年同期比－



② 採算（採算D I の内容（回答企業数50社））

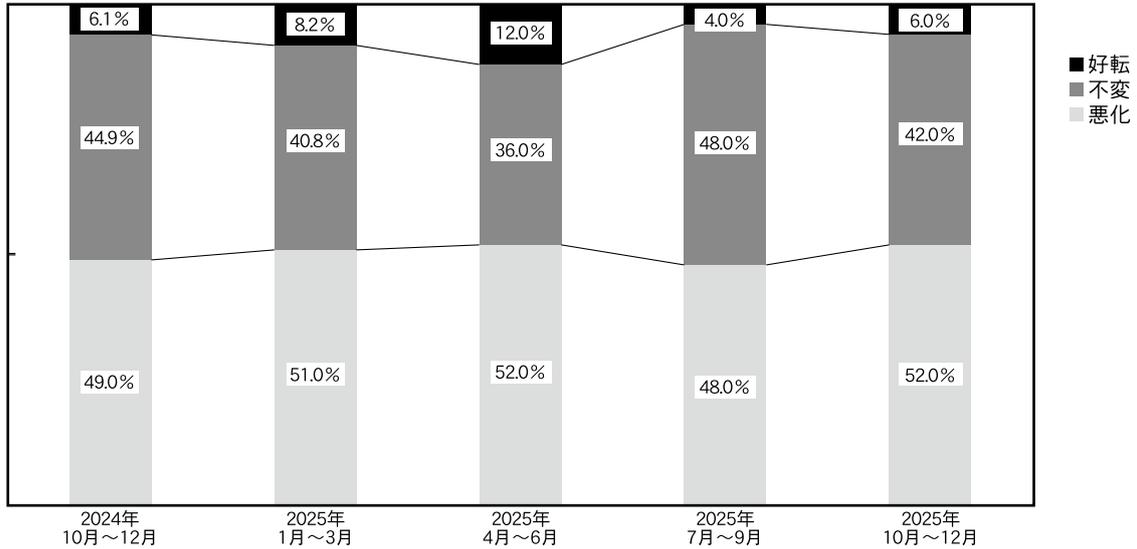
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、6.0%（3社）に増加（前期比+1社）している。

「不変」は42.0%（21社）に減少（前期比▲3社）、

「悪化」は52.0%（26社）に増加（前期比+2社）している。

山梨県 小売業 採算の状況－前年同期比－

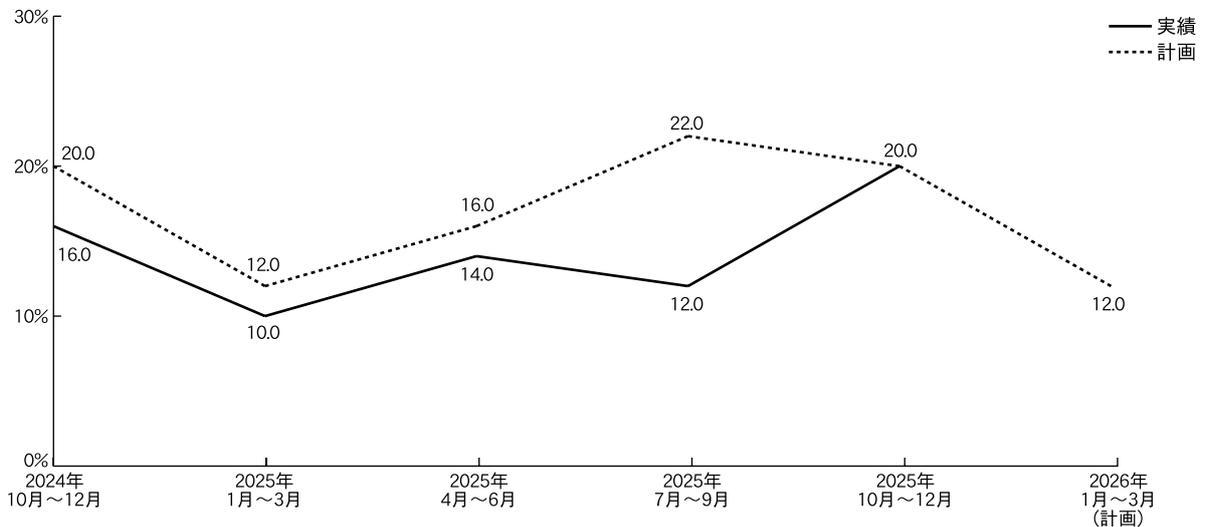


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数50社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は20.0%（10社）であった。その設備投資の内容は、「付帯施設」が4件、「OA機器」が3件、「店舗」「車両・運搬具」が2件ずつであった。

来期の計画については、12.0%（6社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「店舗」が4件、「販売設備」「車両・運搬具」「その他」が2件ずつ、「土地」「OA機器」が1件ずつになる。

山梨県 小売業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数43社）

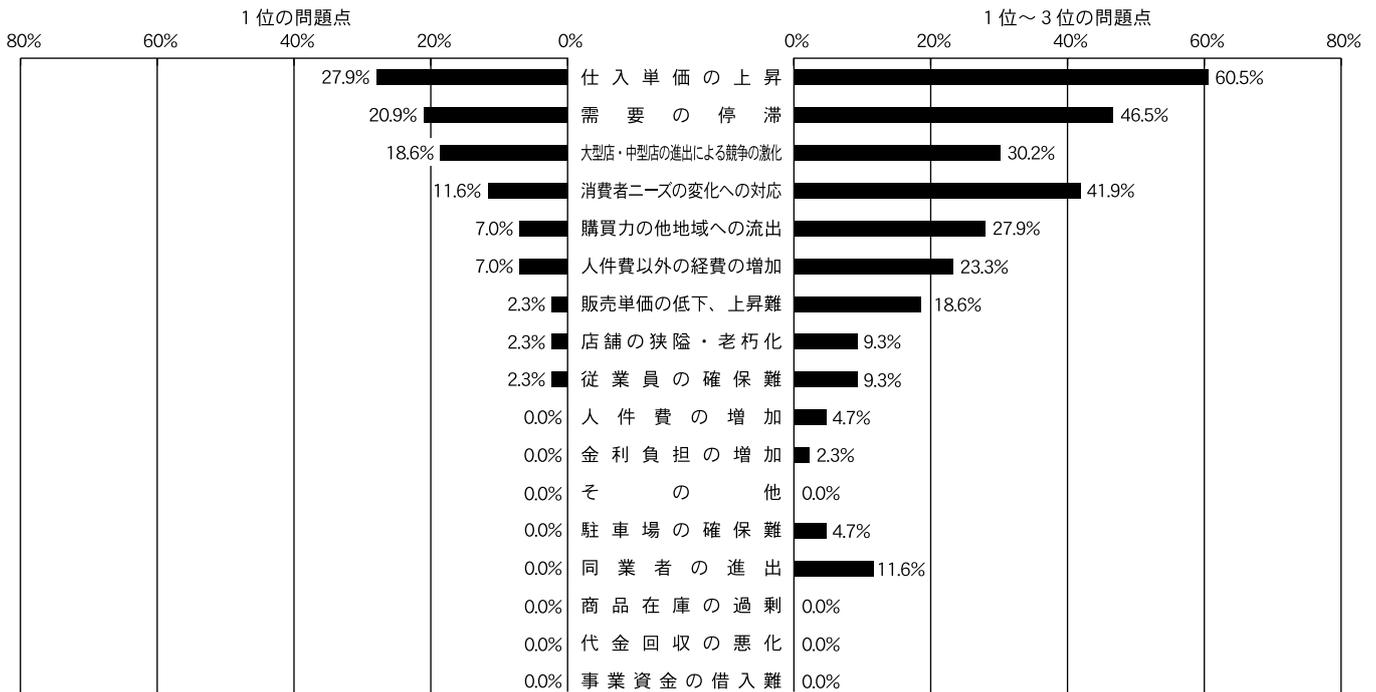
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「仕入単価の上昇」の27.9%（12社）であり、2番目は「需要の停滞」の20.9%（9社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらも、1番目に多かったのは、「仕入単価の上昇」の60.5%（26社）であり、2番目も「需要の停滞」の46.5%（20社）であった。

山梨県 小売業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
織物・衣服・身の回り品小売業	11	22.0
飲食物品小売業	18	36.0
自動車・自転車小売業	2	4.0
家具・建具・じゅう器小売業	4	8.0
その他小売業	15	30.0
合計	50	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	46	92.0	38	76.0
3人～5人以下	4	8.0	11	22.0
6人～10人以下	0	0.0	1	2.0
合計	50	100.0	50	100.0

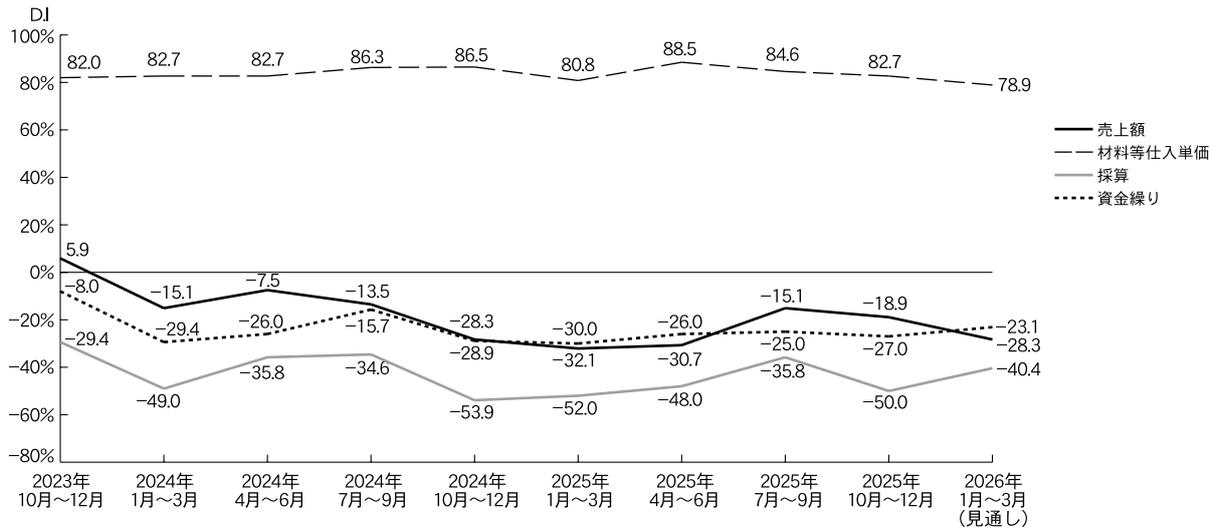
5. サービス業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期▲18.9と前期比で3.8ポイント悪化し、来期も▲28.3へ悪化の見通し。材料等仕入単価D Iは、今期82.7と前期比で1.9ポイント下降（改善）し、来期も78.9へ下降（改善）の見通し。採算D Iは、今期▲50.0と前期比で14.2ポイント悪化した。来期は▲40.4へ改善の見通し。資金繰りD Iも、今期▲27.0と前期比で2.0ポイント悪化した。来期は▲23.1へ改善の見通しである。

今期は材料等仕入単価D Iのみが改善で、他のD Iは全て悪化した。来期は売上額D Iのみが悪化の見通しだが、他のD Iは全て改善の見通しである。

山梨県 サービス業 主要景況項目の推移－前年同期比－



(2) 主な項目でみる業況

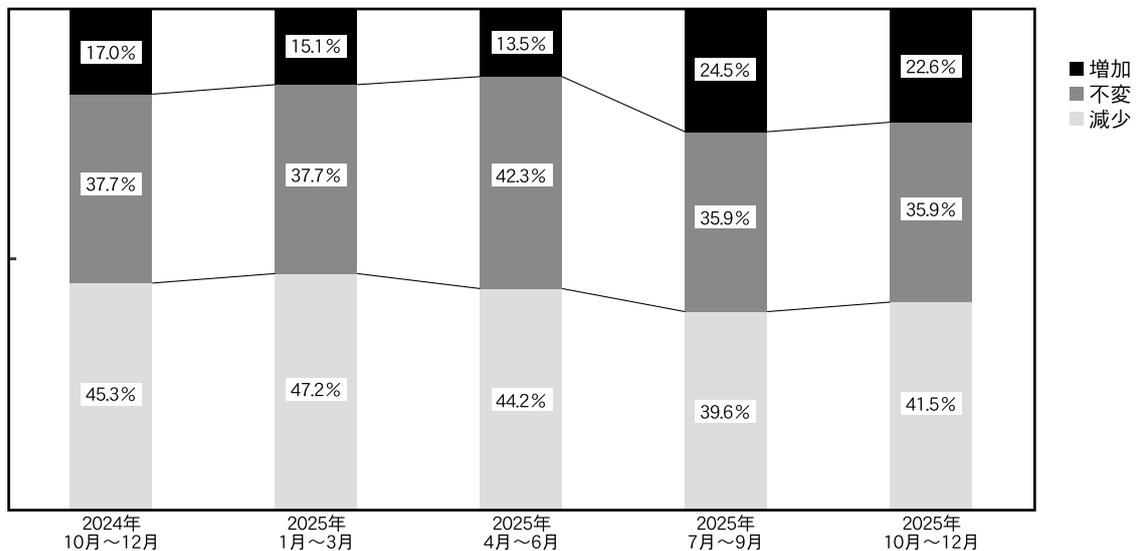
① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数53社）

「増加」と答えた企業の割合は、22.6%（12社）に減少（前期比▲1社）している。

「不変」は35.9%（19社）で前回と変化なし、

「減少」は41.5%（22社）に増加（前期比+1社）している。

山梨県 サービス業 売上額の状況－前年同期比－



② 採算（採算D I の内容（回答企業数52社（前回53社））

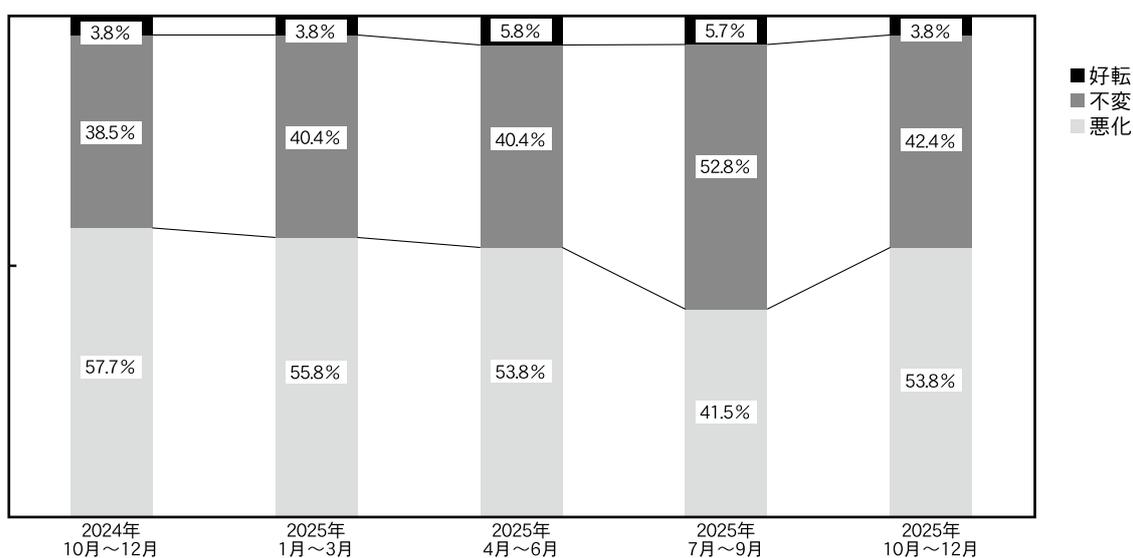
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、3.8%（2社）に減少（前期比▲1社）している。

「不変」は42.4%（22社）に減少（前期比▲6社）、

「悪化」は53.8%（28社）に増加（前期比+6社）している。

山梨県 サービス業 採算の状況－前年同期比－

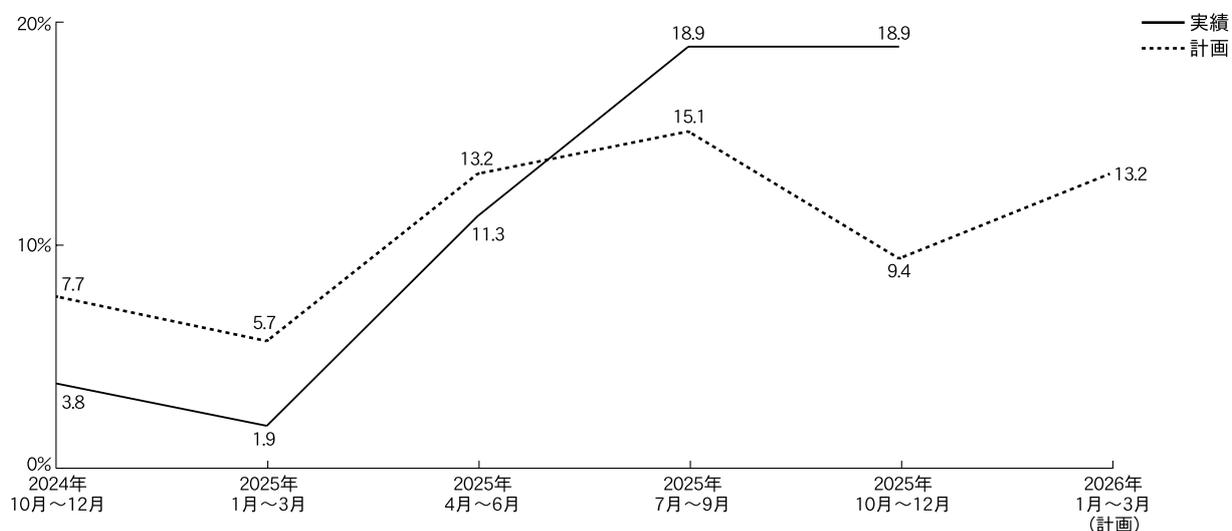


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数53社）

今期において、設備投資を行った企業の割合は18.9%（10社）であった。その設備投資の内容は、「サービス」が6件、「付帯施設」が3件、「車両・運搬具」「OA機器」が2件ずつ、「建物」「その他」が1件ずつであった。

来期の計画については、13.2%（7社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「サービス」「車両・運搬具」「付帯施設」「OA機器」が2件ずつになる。

山梨県 サービス業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数46社）

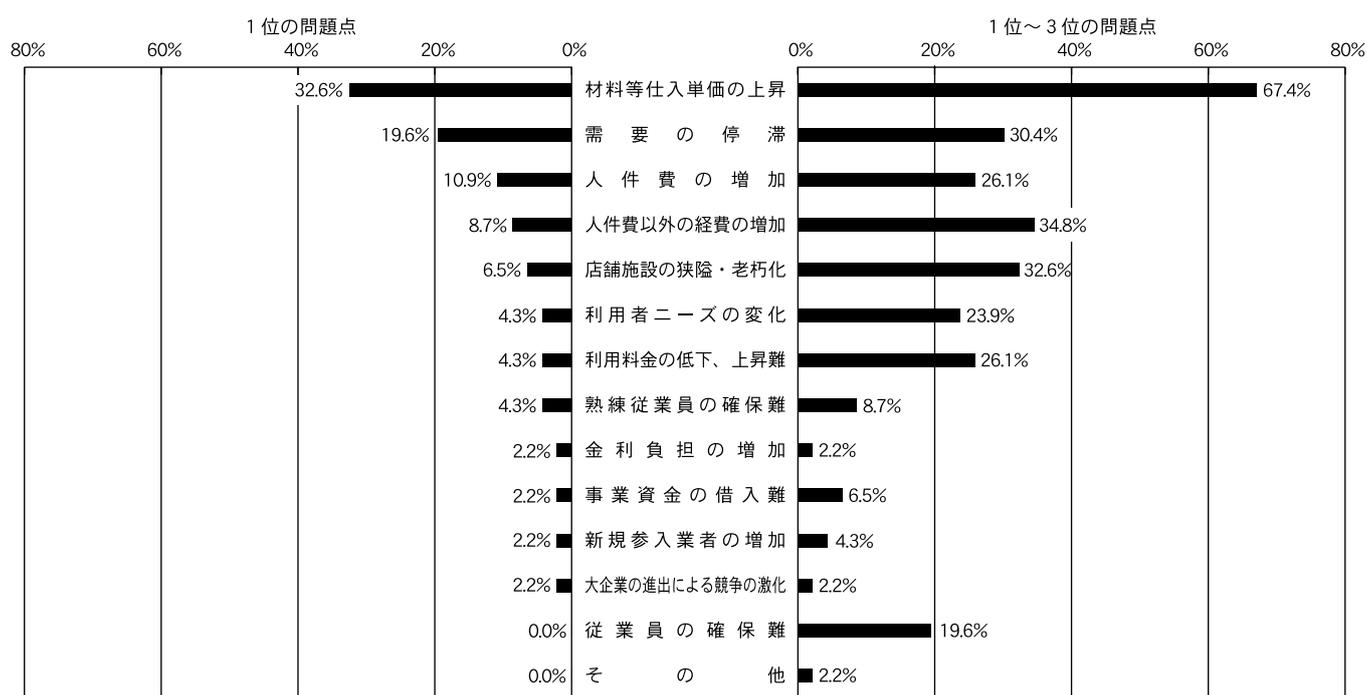
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「材料等仕入単価の上昇」の32.6%（15社）で、13期連続。2番目は「需要の停滞」の19.6%（9社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらも、1番目に多かったのは「材料等仕入単価の上昇」の67.4%（31社）であるが、2番目は「人件費以外の経費の増加」の34.8%（16社）であった。

山梨県 サービス業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店（一般・遊興）	19	35.8
宿泊業	7	13.2
運送業	1	1.9
自動車整備業	4	7.6
洗濯・理美容業	19	35.8
その他のサービス業	3	5.7
合計	53	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	44	83.0	37	69.8
3人～5人以下	9	17.0	11	20.8
6人～10人以下	0	0.0	3	5.7
11人～20人以下	0	0.0	2	3.7
合計	53	100.0	53	100.0